

個人住宅新築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

# 尾平宮前遺跡

2019年(平成31年)2月  
四日市市教育委員会

## 例言

- 1 本書は、個人住宅新築にかかる尾平宮前遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 調査にかかる経費は、四日市市が負担した。
- 3 現地調査および整理作業は、下記の体制で行った。
  - ・調査主体 四日市市教育委員会
    - 教育長 萩原 文雄
    - 副教育長 栗田 さち子（平成29年度） 松岡 俊樹（平成30年度）
    - 教育監 上浦 健治（平成29年度） 廣瀬 琢也（平成30年度）
    - 理事 中村 竹雅
  - ・調査担当 四日市市教育委員会社会教育課
    - 社会教育課長 川尻 秀納
    - 主幹 水本 龍治
    - 主幹 清水 政宏
    - 主幹 石毛 彩子
    - 室内整理員 北野 節子 鈴木 美和子
  - ・土工作業担当 橋本技術株式会社
- 4 報告書の作成業務は平成30年度に四日市市教育委員会社会教育課が行い、執筆・編集は山本達也・川崎志乃が行った。
- 5 遺構実測図作成にあたっては、国土調査法による第VI座標系を基準とし、方位の表示は座標北を用いた。
- 6 本書に使用した遺構表示記号は、下記のとおりである。

SA : 構造 SB : 掘立柱建物
- 7 本書で表記する色調は、農林水産省水産技術会事務局及び財團法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』（2002年版）に準拠した。
- 8 本書が扱う発掘調査の資料や出土遺物は、四日市市教育委員会が保管している。

## 本文目次

I 調査に至る経緯	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 文化財保護法等にかかる諸手続き	1
II 位置と環境	1
1. 地理的環境	1
2. 歴史的環境	1
III 遺構と遺物	6
1. 遺構	6
2. 遺物	10
IV まとめ	11
報告書抄録	14
奥付	14

## 挿図目次

第1図 遺跡位置図	2
第2図 尾平宮前遺跡調査区位置図	4
第3図 尾平宮前遺跡周辺地形図	4
第4図 遺構配置図、東壁土層図	7
第5図 SB1・SB2・SA7 平面・断面・土層図、 遺物実測図	8
第6図 SB3・SB4・SB5・SB6 平面・断面・土層 図、遺物実測図	9
第7図 ピット・包含層等出土遺物実測図	10
第8図 近隣の遺跡における掘立柱建物検出例	11

## 挿表目次

第1表 遺構一覧表	6
第2表 遺物観察表	10

## 写真図版

図版1 調査区全景（段下げ状態 北東から）、調査区全景（完堀状態 北東から）	12
図版2 調査中状況（北から）、SB1(B4P3南西から)、SB2(B2P5南から)、SB4(C4P1南東から)、 出土遺物	13

## 報告書抄録

14
----

## I 調査に至る経緯

### 1. 調査に至る経緯

尾平宮前遺跡は、四日市市尾平町に所在する。遺跡範囲はすでに宅地となっている所が多く、その間に所々畠地が点在する状況となっている。今回の発掘調査は、個人住宅の新築工事に伴う事前調査として実施した。

住宅の計画地は、平成 28 年度に埋蔵文化財の照会があり、尾平宮前遺跡の範囲内であったため、四日市市教育委員会と建設工事を行うアサヒグローバル株式会社との間で埋蔵文化財の保護措置が協議されることとなった。協議の結果、平成 29 年 3 月 29 日に試掘調査を行い、遺構・遺物が確認された。その結果を受けて 4 月 17 日に再度協議の結果、造成地のうち遺構面に達する深度の切土が行われる部分について発掘調査を行うこととなり、平成 29 年 6 月 23 日より調査を行った。

(山本)

### 2. 文化財保護法等にかかる諸手続き

文化財保護法に係る諸手続きは、以下により行っている。

【法93条】平成29年2月27日付、社会第379号

【法93条4】平成29年3月6日付、(県教育長通知)  
社会第379号-2(事業者宛)

【試掘調査】

・協定書・協議書締結 平成29年3月17日  
(事業者・四日市市教育長 葛西文雄)  
・調査実施 平成29年3月29日  
・結果報告 平成29年3月29日付、社会第379号-3-(1)(事業者・県教育長宛)

【法99条】

平成29年7月5日付け、社会第144号  
(県教育長宛)

【発掘調査】

・結果報告 平成29年7月20日付、社会第144号-2  
(事業者・県教育長宛)  
・発見届 平成29年8月2日付、社会第144号-3  
(四日市北警察署長宛)  
・埋蔵文化財認定 平成29年8月15日付、教委第12-4511号(県教育長通知)  
・譲与申請 平成30年5月14日付、社会第57号  
(県教育長宛)

(川崎)

## II 位置と環境

### 1. 地理的環境

四日市市は、南北に長い三重県の北部に位置し、西は鈴鹿山脈によって限られ、東は伊勢湾に面する。市域を流れる河川は、鈴鹿山脈に源を発し、東流して伊勢湾に注ぐ。これらの河川間には東西方向に丘陵や台地が延び、その上には多くの遺跡が確認されている。

市内では、東部の海岸平野を東海道が南北に通っている。途中の日永追分で参宮道は分岐し、伊勢神宮へ向かう。伊勢湾に面する湊からは、対岸の三河や美濃に通じ、太平洋に出て東国とも交易が行われた。鈴鹿山脈の八風越えや千種越えによって、近江を通る東山道と繋がり、京と東国を結ぶ交通の要衝となっている。

尾平宮前遺跡（1）は、四日市市中部の三滝川左

岸にある尾平町に所在し、標高 15 ~ 25m の南面する段丘下位面に立地する。遺跡の東側と西側には浅い谷地形が入り込んでおり、この谷に挟まれた緩やかな尾根上が遺跡範囲となっている。遺跡と南側の三滝川沖積低地面との比高差は 3 m 程度である。

同じ段丘上には、東方 300m に上畠遺跡（2）（弥生～古墳時代）、同 400m に永井遺跡（3）（弥生～中世）がある。

### 2. 歴史的環境

尾平宮前遺跡（1）とその周辺の歴史的な経過を通して観する。文章中の番号は第1図の番号に対応している。

#### 旧石器時代

四日市市周辺では、ナイフ型石器の出土する遺跡がいくつか知られている。内部川・鎌谷川流域に属

する内戸谷B遺跡や宮蔵遺跡（4）などの市域南部のグループと、朝明川流域の久留倍遺跡（5）及び、野呂田遺跡などを含む市域北部のグループである。尾平宮前遺跡のある生桑丘陵周辺では当該期の遺跡は確認されていない。

#### 縄文時代

縄文時代草創期に属するものとしては東北山A遺跡など、有舌尖頭器が出土した遺跡が鈴鹿山麓扇状地の台地上で多数確認されている。早期の遺跡は、内部川流域の一色山遺跡で押型文土器が出土している。このほかに発掘調査で遺構が確認されている

例を挙げると、東日野遺跡（6）や小牧南遺跡で堅穴住居が、土丹遺跡（7）や志知南浦遺跡のような沖積地で縄文晩期の突帯文土器が確認されており、徐々にではあるが様相も明らかになりつつある。

#### 弥生時代

弥生時代になると、まず前期に海蔵川と三滝川に挟まれた生桑丘陵上に、いざれも多重環濠をもつ大谷遺跡（8）、永井遺跡（3）などの集落が営まれる。中期から後期では大谷遺跡、永井遺跡も継続して営まれるが、その他の地域でも遺跡数が飛躍的に増加し、海岸部から内陸部に広く分布するようになる。



第1図 遺跡位置図 (1:50,000) [国土地理院 1:25,000 桑名・菰野・四日市東部・四日市西部]

上野遺跡（9）は中期の代表的な集落である。

久留倍遺跡では中期から後期にかけての堅穴住居のほか、方形周溝墓が確認され、流路からは多くの土器・木製品が出土した。特に後期になると遺構数が飛躍的に増加する。同時期、久留倍遺跡南西の丘陵上に立地する山奥遺跡（10）で大規模な集落が営まれる。土製模造鏡や多数の鉄製品などの遺物がある。墓域としては、久留倍遺跡及びこれに隣接する大矢知山畠遺跡（11）で方形周溝墓が検出されている。上野遺跡では中期後葉の集落跡と方形周溝墓が確認されている。

#### 古墳時代

古墳時代前期に入ると、久留倍遺跡や上野遺跡でまとまった集落が見られるようになる。また、海岸に近い茂福城跡（39）の下層で確認された里之内遺跡（12）ではS字状口縁台付甕が出土しており、この時期に海岸低地への進出が始まったものと見られる。一方でやや内陸の横谷遺跡（13）でも小規模な集落が確認されている。周辺の前期古墳は、内行花文鏡や車輪石・勾玉などが出土した志氏神社古墳（14）があるほか、員弁川水系では桑名市の高塚山古墳が見られる程度である。菟上遺跡では滑石製合子型石製品の蓋が出土し、伊坂遺跡では勾玉や管玉が出土していることから、他にも消滅した古墳が存在した可能性がある。中期古墳としては、埴輪が出土した茶臼山古墳群（15）や八幡塚古墳がある。後期に入ると、遺跡数が爆発的に増加する。中野山遺跡では前期から続いて集落が営まれる。垂坂丘陵東部地域では、一旦断絶していた山奥遺跡で再び集落が営まれるようになる。海蔵川流域では、江田川遺跡（16）のほか、川向山添遺跡（17）で後期の集落が確認されている。古墳は、特に7世紀以降に小規模な群集墳が多く築造される。上野1号墳（18）、久留倍遺跡 SX141、御池古墳群（19）のように横穴式石室を中心とする古墳がある一方、死人谷横穴墓群（20）のように横穴墓も多数見られ、その導入の背景が注目される。

生産遺跡としては垂坂丘陵や朝日丘陵周辺に、まず5世紀後半に小杉大谷窯跡（21）が築かれ、その後は西ヶ谷古窯跡（22）、垂坂古窯跡（23）、鳴浦古窯

跡（24）、名戸谷口古窯跡（25）など古墳時代中期から奈良時代にかけて須恵器窯が築かれた。西ヶ谷古窯跡に隣接する西ヶ谷遺跡（26）は、その生産活動に関わっていた集落と考えられる。土師器焼成坑については、山奥遺跡や西ヶ谷遺跡、落河原遺跡（27）、久留倍遺跡で確認されている。

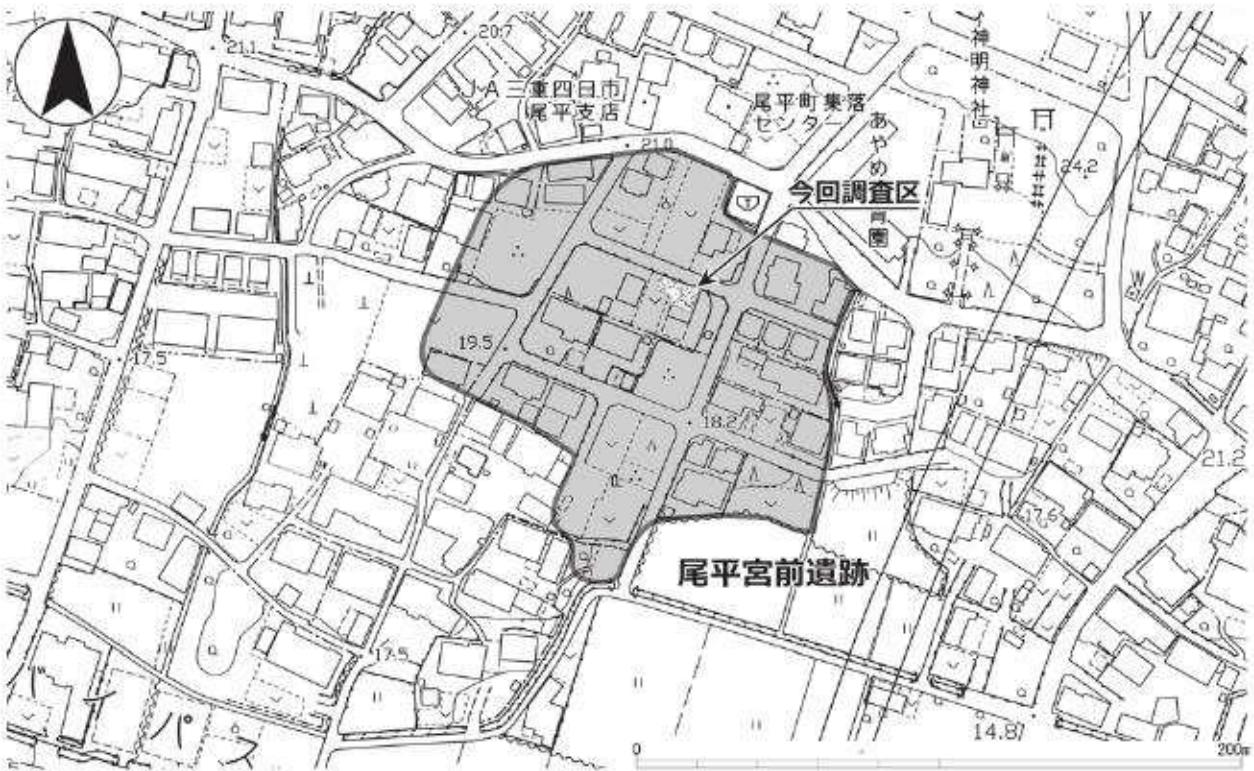
#### 飛鳥～奈良時代

尾平宮前遺跡の所在する尾平地区は、古代三重郡に属している。周辺の当該期の主要遺跡は、貝野遺跡（28）、落河原遺跡などがある。特に貝野遺跡では、やや整然さを欠くが、古代の掘立柱建物が多数検出されているほか、暗文土師器がまとめて出土しており、貝野遺跡を含む古代刑部郷の中心的な集落であったと考えられる。落河原遺跡では石帶が出土しており、官人の存在をうかがわせる。近隣の朝明川流域では、古代朝明郡に関わると思われる発掘調査成果もあり、今後の研究に大きな期待が持たれる。久留倍遺跡では東向きの正殿や八脚門等政庁の施設、大規模な東西棟の掘立柱建物等が検出された。また溝で方形に区画された内側に整然と並ぶ総柱建物が確認され、朝明郡の正倉院跡と推測されている。このほか、宮の西遺跡（29）は石帶のほか木簡が出土し、その内容から古代柴田郷の一部であることが知られる。石帶は前山遺跡（30）でも出土している。対して、貝野遺跡などはこの時期の一般的な集落と思われる遺跡であり、尾平宮前遺跡や近隣の永井遺跡も同様と考えられる。

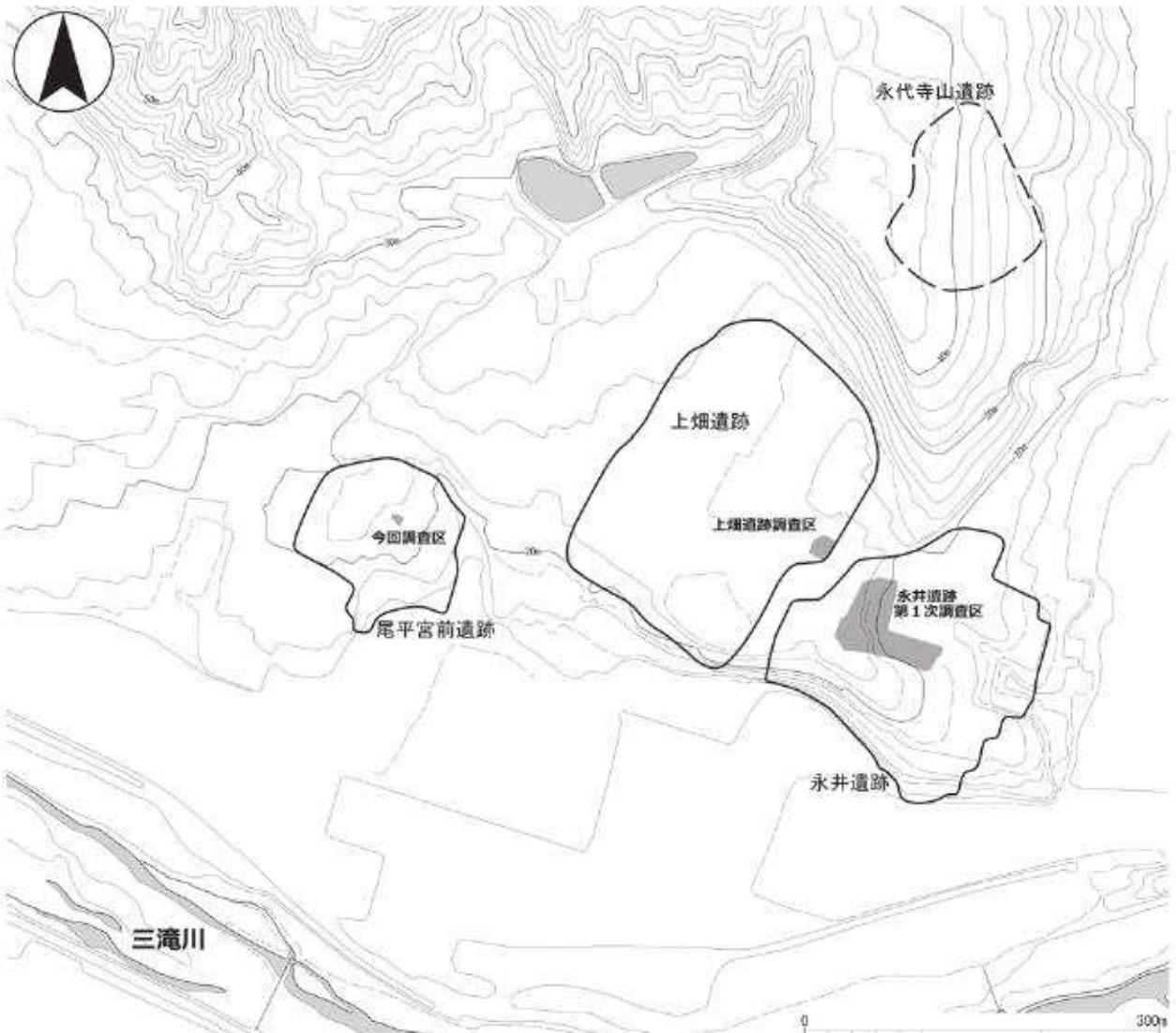
古代三重郡で確認されている古代の寺院としては、智積町の智積庵寺（31）がある。西ヶ谷遺跡ではまとまった量の瓦が出土し、伊坂遺跡では瓦窓の存在が想定されている。上海老町の岡山古窯跡群（32）はこの時代の須恵器を焼成した窯として知られている。

#### 平安時代

平安前期には久留倍遺跡で引き続き正倉が建てられている。近接する大矢知山畠遺跡は豊富な綠釉陶器などの出土遺物から有力者の居館か寺院関連の遺跡とみられる。当時、当地域に大きな影響を及ぼしたと思われるのは、10世紀前葉に建立され現在も信仰を集める垂坂山観音寺（33）及び15世紀に建



第2図 尾平宮前遺跡調査区位置図 (1:2,500) 四日市市都市計画図より



第3図 尾平宮前遺跡周辺地形図 (1:6,000) 昭和32(1957)年測量地形図より作成

立された浄恩寺（43）で、両寺の伝承では共に大膳寺跡（34）の末寺と伝わる。大膳寺跡の発掘調査では土馬や大量の瓦が出土している。この近隣にある大谷瓦窯跡（35）は、大膳寺へ瓦を供給した瓦窯である。上野遺跡では人名と思われる「實平」と墨書がある灰釉陶器が多数出土しており、注目される。永井遺跡では、量は少ないが緑釉陶器も出土しており、尾平宮前遺跡周辺では有力な集落であった可能性がある。

### 中世

律令的支配体制の崩壊に伴い、北勢地方の員弁郡・三重郡・朝明郡の三郡は相次いで伊勢神宮に寄進されて神郡となり、神宮の荘園である御屏・御蔵・納所がたてられた。これらの荘園と関わりがあると考えられる遺跡としては、宮の西遺跡がある。これは古代から続く遺跡で、墨書き土器をはじめとする中世の遺物も豊富に出土しており、近隣の芝田遺跡（36）・小判田遺跡（37）などとともに当地周辺の有力な集落の一部と考えられる。久留倍遺跡では中世の遺構・遺物も多く、掘立柱建物、井戸、溝、区画溝を伴う塚墓、火葬墓等を確認した。上野遺跡は区画溝と掘立柱建物が確認され、貴重な中世の集落資料となっている。

城館について見ると、本遺跡周辺には坂部城跡（38）があり、やや上流に発掘調査が行われた平尾城（39）がある。平野部に目を向けると茂福城跡（40）、浜田城跡（41）、赤堀城跡（42）がある。これらは地割や現存遺構から縄張りの復元が試みられており、赤堀城跡は現在までに5次の発掘調査が行われ、土壙などの遺構が検出されている。（山本）

### 【参考文献】

#### ●四日市市

『四日市市史 第一巻 史料編 自然』1990

『四日市市史 第二巻 史料編 考古 I』1988

『四日市市史 第三巻 史料編 考古 II』1993

『四日市市史 第七巻 史料編 古代・中世』1991

#### ●四日市市教育委員会

『大谷遺跡発掘調査報告－A地区、B地区－』1966

『大谷遺跡発掘調査報告 II－C地区の遺構－』1976

『大谷遺跡発掘調査報告 III－C地区の遺物－』1977

『北山遺跡試掘調査概要』1975

『西ヶ広遺跡発掘調査報告－D地区－』1972

『木井遺跡発掘調査報告』1973

『四日市の後期古墳』1973

『大膳寺跡』1978・1979・1980・1981・1982

『西ヶ谷遺跡3』2002,『西ヶ谷遺跡4』2002,『西ヶ谷遺跡5』2005

『大矢知山遺跡』2002

『山奥遺跡 I』2003,『山奥遺跡 II』2004

『一般国道1号北勢バイパス埋蔵文化財発掘調査報告IX』2006

『久留倍遺跡 5』2013

『久留倍遺跡 6』2013

『川原宮遺跡』2015

『江田川遺跡』2016

『一般国道1号北勢バイパス埋蔵文化財発掘調査報告 X II』2017

『一般国道1号北勢バイパス埋蔵文化財発掘調査報告 X III』2018

『上野遺跡3・上野1号墳』2018

#### ●四日市市遺跡調査会

『上野遺跡』1991,『上野遺跡2』1992

『西ヶ谷遺跡』1996

#### ●朝日町教育委員会

『御生庵寺跡発掘調査報告』1988

#### ●朝日町

『みえあさひ文化財マップ』1999

#### ●三重県文化財連盟

『東名阪道路埋蔵文化財調査報告』1970

#### ●三重県埋蔵文化財センター

『研究紀要』第13号 2003

『志知南浦遺跡発掘調査報告』2008

『近畿自動車道名古屋神戸線（四日市JCT～亀山西JCT）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報II』2012

『近畿自動車道名古屋神戸線（四日市JCT～亀山西JCT）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報III』2013

『近畿自動車道名古屋神戸線（四日市JCT～亀山西JCT）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報V』2015

『新名高速道路建設事業に伴う神戸線（四日市JCT～亀山西JCT）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報II』2012

『近畿自動車道名古屋神戸線（四日市JCT～亀山西JCT）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報III』2013

『近畿自動車道名古屋神戸線（四日市JCT～亀山西JCT）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報IV』2014

### III 遺構と遺物

#### 1. 遺構

確認された遺構は、掘立柱建物・柵列・ピットがある。

**SB1**

種類：側柱建物

規模：桁行4間（6.0m）、梁行3間（4.2m）

方位：N39° W

面積：25.6 m<sup>2</sup>

調査区中央に位置する掘立柱建物である。柱穴は方形で埋土は黒褐色または明黄褐色の埋土である。遺物は土師器・須恵器のほか、スサ入りの焼土小片がある。遺物の内容や柱穴の状況から、奈良時代頃の遺構と考えられる。

**SB2**

種類：側柱建物

規模：桁行3間以上（3.3m）、梁行2間以上（1.8m）

方位：N22° W

調査区北西部に位置する掘立柱建物である。柱穴は円形で黒褐色または褐色の埋土である。土師器・須恵器のほか、スサ入りの焼土小片がある。遺物の内容や柱穴形状及び位置関係から、古墳時代末頃の遺構と考えられる。

**SB3**

種類：側柱建物

規模：桁行3間以上（3.5m）、梁行2間（3.8m）

方位：N8° E

調査区東部に位置する掘立柱建物である。柱穴は円形及び方形で黒褐色の埋土である。遺物は土師器・須恵器がある。遺物の内容や柱穴形状及び位置関係から、古墳時代末頃の遺構と考えられる。

**SB4**

種類：側柱建物

規模：桁行3間以上（3.2m）、梁行3間（3.8m）

方位：N42° E

重複：SB5より新しい

調査区南東部に位置する掘立柱建物である。柱穴は円形で黒褐色の埋土である。遺物は土師器・須恵器がある。遺物の内容や柱穴形状及び位置関係から、古墳時代末頃の遺構と考えられ、方位を同じくして重複するSB5の建て替えの可能性がある。

**SB5**

種類：側柱建物

規模：桁行3間以上（3.2m）、梁行2間（3.3m）

方位：N42° E

重複：SB4より古い

調査区南東部に位置する掘立柱建物である。柱穴は円形で黒褐色の埋土である。遺物は土師器・須恵器がある。遺物の内容や柱穴形状及び位置関係から、古墳時代末頃の遺構と考えられる。

**SB6**

種類：側柱建物

規模：桁行3間以上（3.4m）、梁行2間以上（1.5m）

方位：N36° W

調査区南東部に位置する掘立柱建物である。柱穴は円形で黒褐色の埋土である。遺物は土師器・須恵器がある。遺物の内容や柱穴形状及び位置関係から、古墳時代末頃の遺構と考えられる。

**SA7**

種類：柵列

規模：2間以上（2.9m）

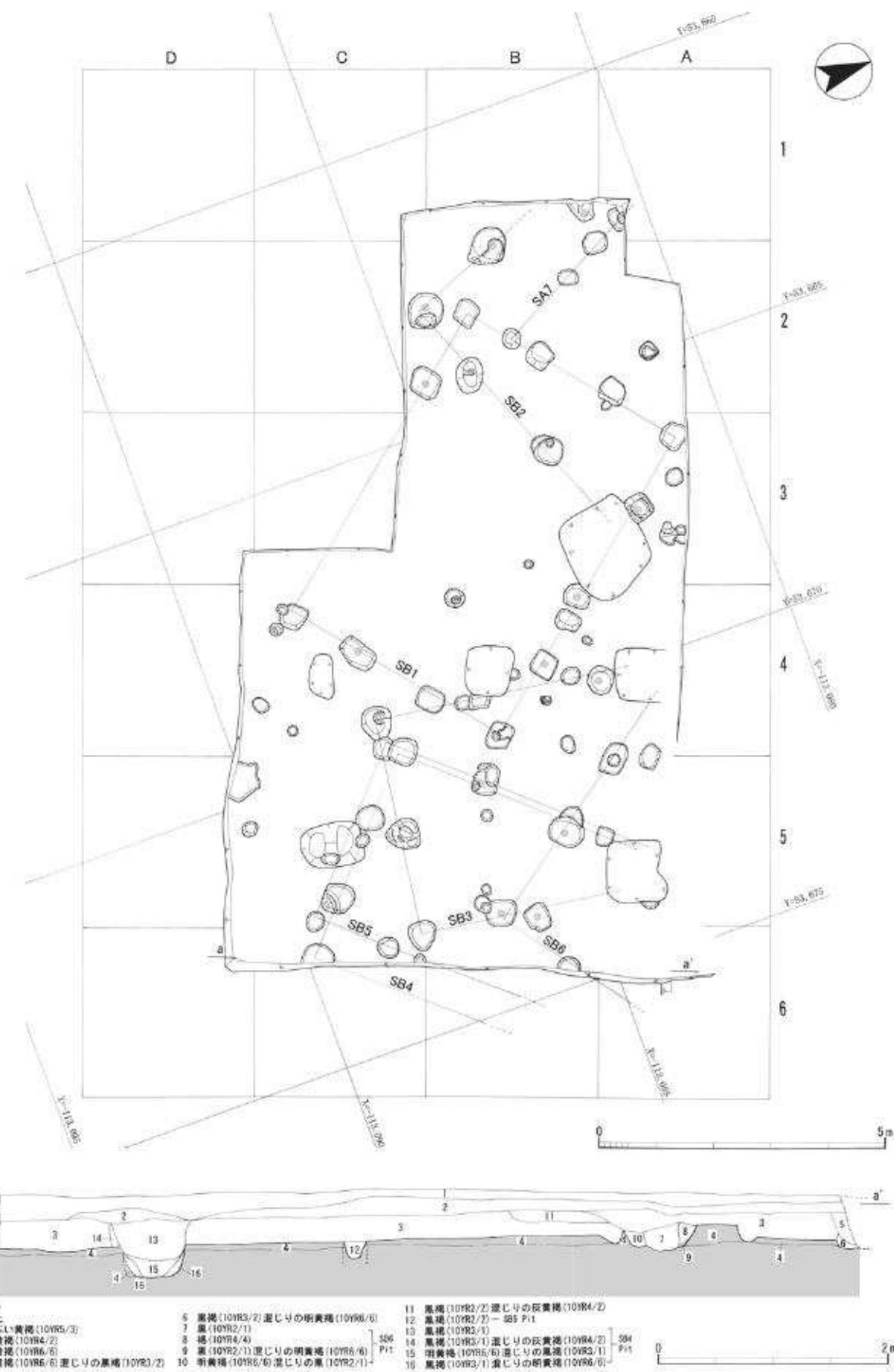
方位：N27° W

調査区北西部に位置する柵列である。柱穴は円形で出土遺物はない。

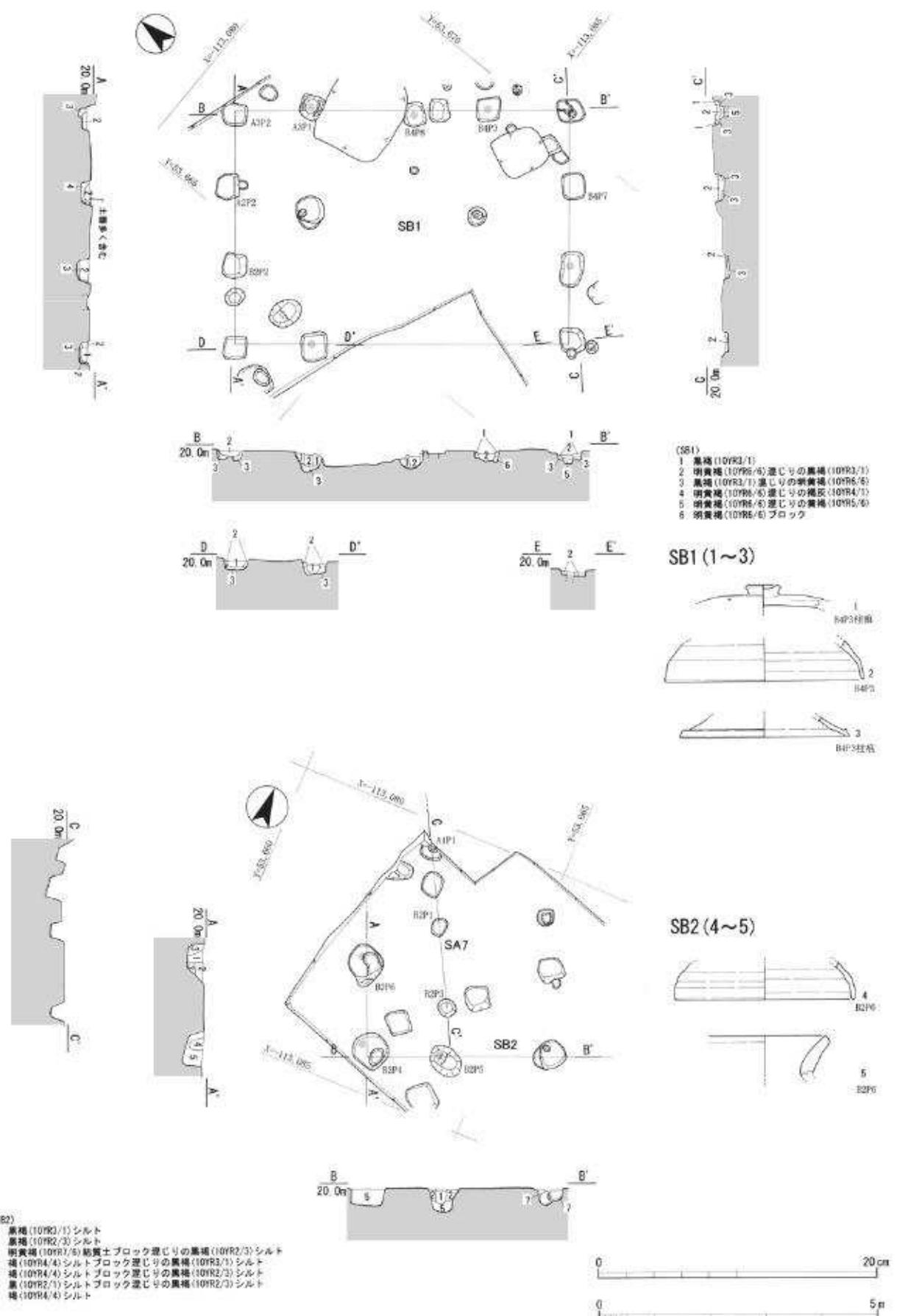
(山本)

遺構番号	時期	間 桁×梁	長さ (桁行m)	幅 (梁行m)	建物面積	建物方向	使用ピット番号	新旧関係	遺物	備考
SB1	奈良	4×3	6	4.2	25.6 m <sup>2</sup>	39° W	A2P2, A3P1, A3P2, B2P2, B4P3, B4P7, B4P8		土師器・須恵器等	柱穴方形
SB2	古墳	4以上×3以上	3.3m以上	1.8以上		22° W	B2P4, B2P5, B2P6		土師器・須恵器等	
SB3	古墳	3以上×2	3.5以上	3.8		8° E	B4P6, B4P9, C4P3, C5P1, C6P1		土師器・須恵器	
SB4	古墳	3以上×3	3.2以上	3.8		42° E	A5P3, B5P3, C4P1, C5P2, C5P3, O6P4	SB5より新	土師器・須恵器	
SB5	古墳	3以上×2	3.2以上	3.3		42° E	B5P5, B5P6, C4P2	SB4より古	土師器・須恵器	
SB6	古墳	3以上×2以上	3.4以上	1.5以上		36° W	A5P1, B5P1		土師器・須恵器	
SA7	平安	2以上	2.9以上			27° W	A1P1, B2P1, B2P3		なし	

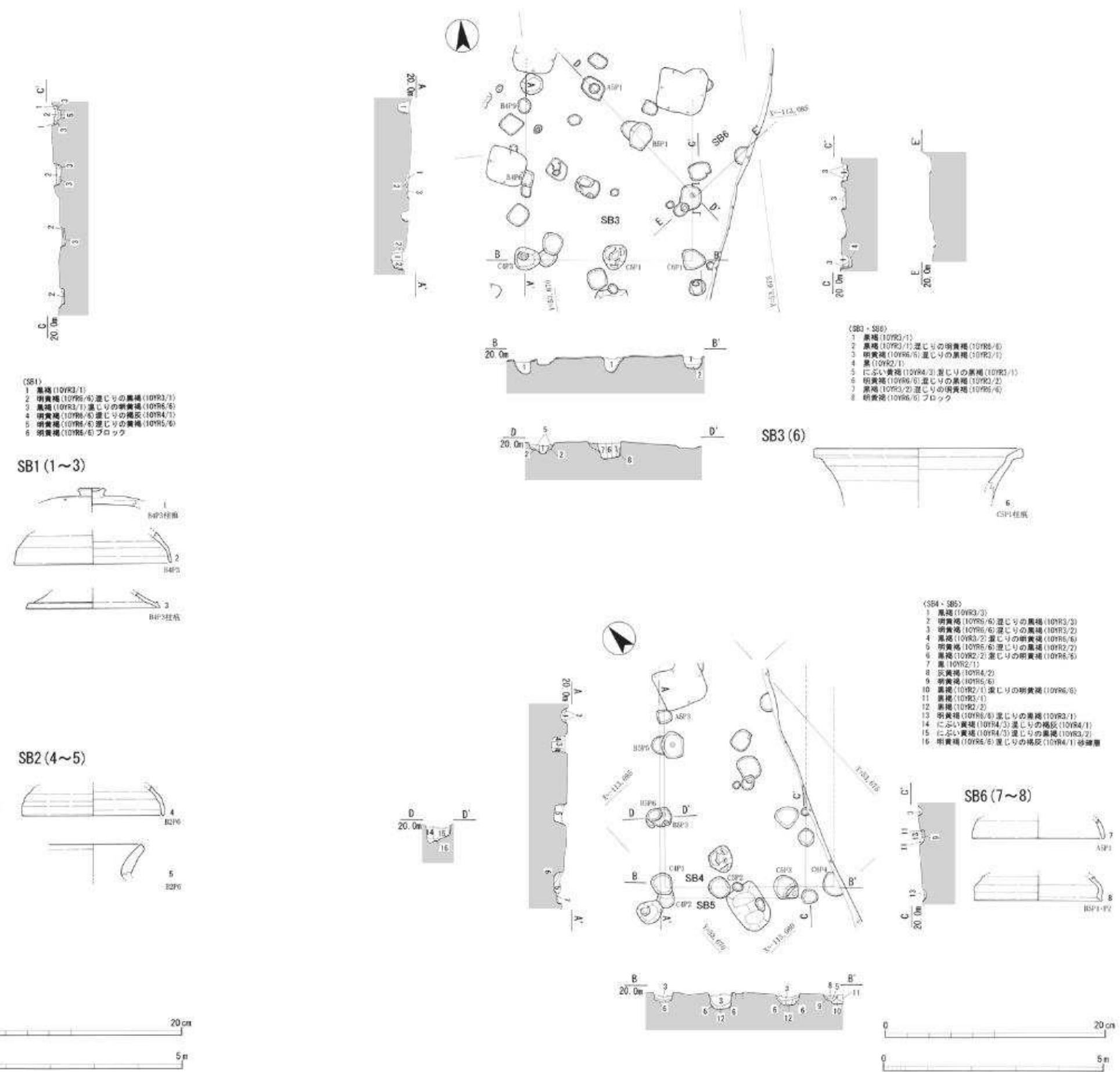
第1表 遺構一覧表



第4図 遺構配置図 (1:100)、東壁土層図 (1:50)



第5図 SB1・SB2・SA7平面・断面・土層図 (1:100)、遺物実測図 (1:4)



第6図 SB3・SB4・SB5・SB6平面・断面・土層図 (1:100)、遺物実測図 (1:4)

## 2. 遺物

### SB1 (1~3)

1は須恵器杯蓋で7~8世紀代のものであろう。  
2は古墳時代後期の杯蓋、3は同じく高杯脚端部である。

### SB2 (4~5)

4は須恵器杯蓋である。5は土師器甕の口縁部である。

### SB3 (6)

6は須恵器壺の口縁部である。

### SB6 (7・8)

7・8は須恵器杯蓋である。

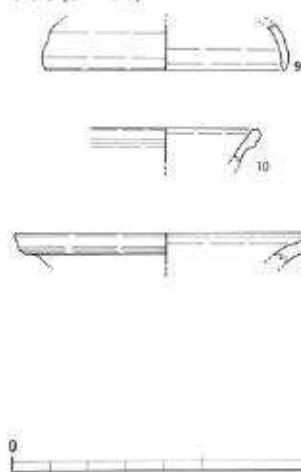
### Pit (9~11)

9は須恵器杯蓋である。10・11は須恵器壺の口縁部である。

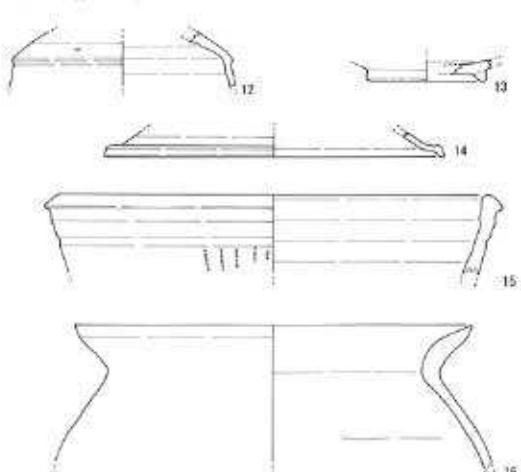
### 包含層・排土 (12~16)

12は須恵器杯蓋である。13は灰釉陶器の椀底部で折戸53号窯期のものであろう。14は須恵器の高杯脚端部である。15は須恵器鉢の口縁部で、外面に刺突文がある。16は土師器甕である。

### Pit(9~11)



### 包含層・排土(12~16)



第7図 ピット・包含層等出土遺物実測図 (1:4)

報告書 番号	出土遺構 出土位置	埋種	法量(cm)			調査技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度 (%)	備考
			口径	底径	器高						
1 SB1 B4 Pit3 柱痕	須恵器 杯蓋	-	つまみ 2.45	-	-	外-つまみ貼付、ロクロナデ、ロクロケズリ 内-ロクロナデ	密	良	黄灰(2.5Y6/1)	10	
2 SB1 B4 Pit3	須恵器 杯蓋	14.2	-	-	-	外-ロクロナデ 内-ロクロナデ	密	良	灰白(N7/0)	口5	
3 SB1 B4 Pit3 柱痕	須恵器 高杯	-	12.1	-	-	外-ロクロナデ 内-ロクロナデ	密3mm以下の砂粒 少量含む	やや 良	灰(N5/0)、灰白 (2.5Y7/1)	底15	
4 SB2 B2 Pit6	須恵器 杯蓋	12.0	-	-	-	外-ロクロナデ 内-ロクロナデ	密	良	灰(N6/0)	口10	
5 SB2 B2 Pit6	土師器 甕	-	-	-	-	外-ヨコナデ 内-底滅	やや粗(2~3mmの砂 粒含む)	良	灰白(10YR8/2)	小片	
6 SB3 C5 Pit1 柱痕	須恵器 壺	18.5	-	-	-	外-ロクロナデ 内-ロクロナデ	密	良	灰白(2.5Y7/1)、 暗灰黄(2.5Y5/2)	口15	外側に自然跡がかかる
7 SB6 A5 Pit1	須恵器 杯蓋	11.8	-	-	-	外-ロクロナデ 内-ロクロナデ	密	やや 不良	灰白(10YR8/2)	口5	
8 SB6 B5 Pit1,2	須恵器 杯蓋	11.4	-	-	-	外-ロクロナデ 内-ロクロナデ	密	やや 不良	灰白(2.5Y7/1)、灰黄 (2.5Y7/2)	口10	
9 A5 Pit2	須恵器 杯蓋	12.6	-	-	-	外-ロクロナデ 内-ロクロナデ	密	良	灰(N6/0)	口10	
10 A4 Pit1	須恵器 壺	-	-	-	-	外-ロクロナデ 内-ロクロナデ	やや密(2mmの砂粒 含む)	やや 良	灰白(SY7/1)	小片	
11 A4 Pit3	須恵器 壺	15.7	-	-	-	外-ロクロナデ 内-ロクロナデ	密	良	灰(SY6/1)	口5	
12 包含層	須恵器 杯蓋	-	-	-	-	外-ロクロナデ、ロクロケズリ 内-ロクロナデ	密	良	灰(NS/0)	横5	
13 排土	灰釉陶器 碗	-	5.9	-	-	外-ロクロナデ、貼付高台 内-ロクロナデ	密	良	灰白(5Y8/1, SY7/1)	底20	内面に使用痕アリ
14 包含層	須恵器 高杯	-	17.8	-	-	外-ロクロナデ 内-ロクロナデ	密(0.5~2mmの砂粒 含む)	良	灰(NS/0)	底5	
15 包含層	須恵器 鉢	22.6	-	-	-	外-ロクロナデ、刺突文 内-ロクロナデ	密	良	黄灰(2.5Y6/1)	口10	内外面に灰オリーブ (SY5/2)の自然跡がかかる
16 包含層	土師器 長脚甕	20.8	-	-	-	外-底滅 内-底滅	やや粗(1~3mm の砂粒含む)	良	灰白(10YR8/2, 2.5Y8/2)	口10	外面上にスス付着

第2表 遺物観察表

## IV まとめ

古墳時代後期までの遺物しか出土していないが、方形の柱掘方をもち、柱の並びが良いことから尾平宮前遺跡SB1と同様、奈良時代に属する可能性がある。

以上のように、周辺遺跡の発掘成果と合わせてみると、この丘陵南辺に古墳・奈良時代の集落が営まれていたと想定できる。また、今回の調査区は堅穴住居が見られない一方で、掘立柱建物が狭い範囲に密集して建てられており、集落内でも居住域とは異なる利用をされた一角であった可能性がある。

### ③ 平安時代の遺構について

今回の調査区は、遺跡範囲のほぼ中央にあり、石器類が採取されている畑地からは40m程東になる。弥生土器と判断できる土器片や石器は出土せず、弥生時代の遺構も検出されなかったことから、同時代の集落範囲に関しては、市史の推定を裏付けるものと言えよう。

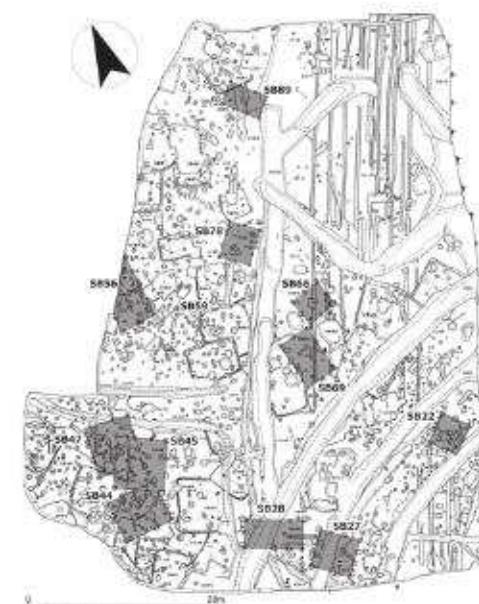
### ② 古墳・奈良時代の遺構配置と周辺遺跡との比較

調査区内で検出された遺構は、古墳時代後期の掘立柱建物5棟及び奈良時代の掘立柱建物1棟、時期不明の柵列1条である。古墳・奈良時代の堅穴住居は見られなかった。

建物方位に関しては、主軸を座標北から40°前後西又は東に振るものが多い。周辺地形などから考えると、いずれの建物も土地の傾斜などに合わせているものと考えられる。

近隣で同時期の遺構が検出されている発掘事例を見ると、東方約400mにある永井遺跡<sup>②</sup>では古墳時代後期の遺構として堅穴住居6棟、土坑3基が報告されている。他に、奈良時代の遺構は堅穴住居4棟と、明確ではないものを含めて掘立柱建物12棟が報告されている(第8図)。古墳時代の掘立柱建物が見られないが、一部の掘立柱建物では灰釉陶器が出土していることや尾平宮前遺跡の状況を合わせて考えると、この12棟の中には奈良時代の他に古墳時代後期と平安時代の建物も含まれていると見てよいだろう。

東方約300mにある上畠遺跡<sup>③</sup>では、古墳時代以降とされる掘立柱建物が1棟検出されている。これは、



第8図 近隣の遺跡における堀立柱建物検出例

(1:800) ※註2文献所収図を元に作成

図版 1



調査区全景（段下げ状態 北東から）



調査区全景（完堀状態 北東から）

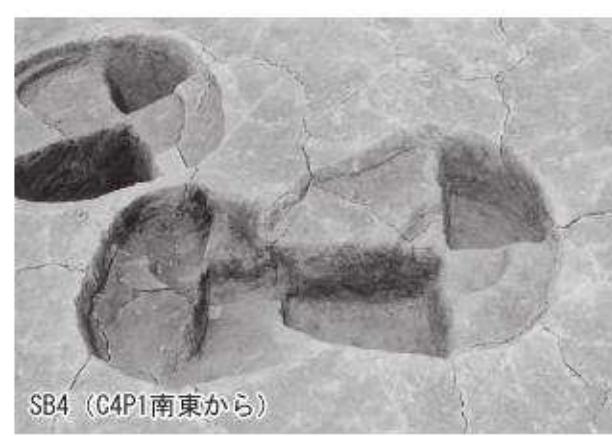
図版 2



調査中状況 (北から)



SB2 (B2P5南から)



SB4 (C4P1南東から)

出土遺物



1



15



6



16

## 報告書抄録

ふりがな	おびらみやまえいせき							
書名	尾平宮前遺跡							
シリーズ名	四日市市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	55							
編著者名	山本達也 川崎志乃							
編集機関	四日市市教育委員会							
所在地	〒510-8601 三重県四日市市諏訪町1番5号 Tel059-354-8240							
発行年月日	2019(平成31)年2月28日							
所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因	
		市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
おびらみやまえいせき 尾平宮前遺跡	よっかいちし 四日市市 おびらちょう 尾平町	24202	264	34° 58' 45"	136° 35' 16"	20170623 ～ 20170720	84.43	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
尾平宮前遺跡	集落跡	古墳・奈良	掘立柱建 物	須恵器・土師器・ 灰釉陶器	古墳時代及び奈良時代の掘立柱建 物を確認。			
要約	尾平宮前遺跡は、三滝川左岸の河岸段丘上に立地する遺跡である。調査の結果、古墳時代後期と奈良時代の掘立柱建物などが7棟検出された。建物は狭い範囲に密集し、建て替えの状況なども見られた。							

四日市市埋蔵文化財発掘調査報告書55  
**尾平宮前遺跡**  
 2019(平成31)年2月28日  
 編集・発行 四日市市教育委員会  
 印刷 畠山印刷